

令和8年度教育実践優秀表彰の概要

- 1 目 的 学校教育において、積極的な取り組みを行い、顕著な成果をあげている教員を適切に評価するとともに、その成果を普及することにより、教員の資質の向上や意欲の高揚を図り、学校の活性化に資する。
- 2 本表彰制度の開始年度 平成15年度
- 3 表彰者数（案） 教育実践優秀教員 6名（令和7年度 6名）
教育実践奨励賞 4名（令和7年度 4名）
- 4 応募数 22名（令和7年度 21名）
- 5 選考等日程
令和7年12月12日 募集通知（前年度）
令和8年 6月 8日 募集締切（22名の応募）
8月 3日 第1回選考委員会（委員の任命、1次選考：10名選出）
8月26日 第2回選考委員会（2次選考：プレゼンテーション実施）
（最終選考：6名選出）
9月18日 定例教育委員会 （被表彰者の決定）
- 5 表彰式 令和8年11月4日（水）
- 6 表彰の効果等

教育実践優秀教員に選ばれた者は、給与上の優遇措置や中央研修等への参加に優先的に推薦されるほか、各種研修会の講師を務めている。

また、教育実践優秀に選ばれたレポートについては、レポート集として、県内の小・中・県立学校に送付し、義務教育課と教育センターのホームページ上にも掲載して、普及を図っている。

令和８年度 教育実践優秀表彰について

○教育実践優秀教員

学 校 名	実践のテーマ	実 践 の 概 要 等
高松市立木太南小学校 教諭 杉浦 康太	教職員のゆとりを生み出し、創造的に思考する集団をつくる教務主任の役割 ～ 教職員同士の考えや意図を「つなぐ」ことを意識した、週行事予定の作成や期末教育評価の考察より ～	教務主任として、校内の実態を分析したり、全教職員が共通理解のもとで教育活動に取り組んだりすることを通して、業務改善を着実にを行っている実践である。週行事予定表のシステム化を図るとともに、コラム欄に有用な情報を掲載することで、教職員の意見を「つなぐ」仕組みを整え、創造的な思考を生み出す機会としたり、期末教育評価の考察から出された教職員のアイデアを実現化することで、教職員間の協働性や同僚性を高めたりするなど、学校教育目標を達成するうえで大きな成果を上げている。
高松市立塩江小学校 教諭 伊藤 愛華	食事の際の「感謝」の価値に対する考えを広げ深める総合単元的道徳学習について	地域教材や地域の人材を効果的に活用しながら、様々な体験活動や教科等の学習を通して、食に対する「感謝」の気持ちを高め、食育を推進することを目指した実践である。児童の実態をもとにした課題を設定し、その解決過程において児童が地域の方と農作業体験をしたり、食材に込められた思いや苦労を聞いたりする総合的な学習の時間での学びと、地域の特産品を守る方々の食材への思いに気づく道徳科の学びを関連させることにより、価値の醸成や学びの日常化につなげるなど、大きな成果を上げている。
観音寺市立大野原小学校 教諭 大山 美和	自らの学びを調整し、主体的に学びに向かう児童の育成 ～個別最適な学びと協働的な学びの視点を取り入れた授業づくりを通して～	現職教育主任として、「児童主体の課題の設定」「自己選択・自己決定の場の設定」の視点から授業改善に取り組むことを全教職員で共有し、児童に「学びを委ねる」実践を積み重ねることを通して、自らの学びを調整し、主体的に学びに向かう児童の育成を目指した実践である。児童と共に単元計画やゴールをつくり、児童の素直な問いから学習課題を設定することで、児童の学習意欲を喚起したり、児童が学習の「内容・方法(学び方)・学習形態」を選択する場を設けることで、児童が学びを自分事として捉え、能動的に学びに向かう姿に変容したりするなど、大きな成果を上げている。
観音寺市立大野原中学校 教諭 大塚 裕介	主体的に学ぶ生徒の育成を目指した現職教育の取組 ～「ときめき」のある授業づくりを通して～	生徒アンケート調査から授業における課題を見出し、現職教育主任として、生徒が主語の授業改善を全教職員で取り組むことを目指した実践である。各教職員の実践からまとめた『『ときめき』につながる教えの巧みな技』を活用し、心が動く授業づくりを日常的に取り組めるようにしたり、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図った単元を記録する「大中学びのときめきシート」の作成を提案し、全教職員で取り組む機会を設定したりすることを通して、授業の計画段階から授業改善の意識が高まり、指導力の向上につながるとともに、生徒の授業での意識が肯定的な変化を見せるなど、大きな成果を上げている。

香川県立石田高等学校 教諭 宇佐美 幸大	ため池を教材とした農業土木分野の教育実践 ～地域課題と資格取得を結ぶ学びの構築～	農業土木の本質的理解や社会的な役割の実感に至っていない生徒の現状に対して、資格学習と現場実践を一体化した学びのサイクルを構築し、生徒に農業土木技術者としての強い矜持を持たせることを目指した実践である。現場の経験から生きた知識と地域を支えているという実感を得た生徒は、資格試験の合格率を高めるだけでなく、地域産業を支える技術者としての自覚を持つまでに成長した。実体験の気づきを学習に活かす本実践は、あらゆる学びの場に汎用できる点でも大きな成果を上げている。
香川県立多度津高等学校 教諭 則包 良子	消費者トラブルを自分ごととしてとらえる家庭クラブ活動 ～多世代を繋ぐ啓発活動を通じ、守られる立場から地域を守る主体へ成長する実践～	消費者トラブルが増加する中で、自分は騙されないと過信していたり対策不足を自覚していなかったりする人々が多いという実態を踏まえ、生徒が中心となって自分たちも含めた地域の人々に「消費者力」を身につけてもらうことを目指した実践である。幅広い年齢層の方々との関わりや金融機関との連携などを通じて、生徒が自分自身の考え方を内省し、知識を正しく使いこなす力を身につけ、何より自立した市民として地域を守る自覚を持つまでに至るなど、大きな成果を上げている。

○教育実践奨励賞

学校名	職名	氏 名	実践のテーマ
さぬき市立志度小学校	教諭	斎藤 諒太	主体的に地域課題に向き合い、協働して地域課題を解決する児童の育成について —会社活動の仕組みを生かした課題解決学習—
さぬき市立長尾小学校	教諭	中川 大暉	教員の多様な取り組みを生かした教員研修の在り方について ～ 児童の実態をもとに教員の得意を集めて作り上げた現職教育 ～ (さぬき市立志度小学校での実践)
宇多津町立宇多津北小学校	教諭	渡邊 佳代	「なりたい自分になるために」 ～キャリア教育の推進～
まんのう町立満濃中学校	教諭	河西 紀亮	芸術祭参加へ向けた中学美術科による協働的表現の実践 —統計的分析と経年分析を組み合わせた中学校美術科の取組—